

俳句を無形文化遺産に

日本文化を代表する俳句を、ユネスコ(国連教育科学文化機関)の「無形文化遺産」に登録しようという動きが、俳句界で始まった。海外の「HAIKU」愛好家が増える中、登録による「本家」日本での俳句の盛り上がりも期待する。旗振り役をつとめる元文相の有馬朗人・国際俳句交流協会会長に聞いた。

俳句は、和歌に始まる定型詩の歴史から生まれた。「子供からお年寄りまで、これほど多くの人が俳句や短歌といった短詩を作る国はない」海外では、季語や五七五の定型にこだわらない3行の短詩として親しまれている。ノーベル文学賞を受賞したスウェーデンの詩人トランストロム、元ベルギー首相のファロン、欧州連合(EU)議長など愛好家は多い。

第2次世界大戦前、アメリカ出身でヨーロッパで活躍した詩人エズラ・パウンドが俳句に影響を受けた詩を発表、

国際俳句交流協会 有馬朗人会長

短くも強い印象 世界に影響



戦後は禅の思想とともに本格的に英語圏で紹介された。

浮世絵がゴッホやモネに影響を与えたように、「短い中で強い印象を与える俳句は、他国の詩人にもショックを与えた」。さらには「海外の文学に革命を起こした」とも。

「特に西洋では長い間、詩は人間の営みをうたう職業作家のものだった。ごく短く、自

然から得た感動を詠む俳句は、文学に縁がなかった人にも詩を書く喜びを与えた」

東洋には自然を詠む短い定型詩が根付いている。8世紀の唐には、五言絶句や七言絶句で山水の美をうたった王維や杜甫、李白がいた。同時代に編まれた万葉集では、柿本人麻呂や山部赤人などが詠んだ。朝鮮半島には14世紀ごろに完成した時調がある。

「まずは国内の俳人たちが団結することから始まる。大げさに言えば、漢字文化圏の短詩が共に無形文化遺産に登録されるのが最終目標。今の

政治状況への憂いもこめて」モデルは昨年末に登録された「和食」。京都の日本料理業界の働きかけが自治体や政府を動かし、世界で日本の食文化の価値が認められた。俳句の普遍的な価値は「すでに広まっている」という。

「無形文化遺産」は、芸能や祭り、伝統工芸技術などが対象で、国内では歌舞伎や和食など22件が登録済み。登録の可否はユネスコの政府間委員会で決定するが、各国からの推薦が多く、審査は年々厳しくなっている。

(宇佐美貴子)